

Raffiné Journal vol.29

その人が、場になる。

輪郭は、溶けないまま残る。

誰かを演じても、
そこにいるのはいつも同じ人だった。

消えないのではなく、
消えようとしていない。

ある人の演技を見ていると、
物語より先に、その人自身が立ち上がってくる。

下手ではない。むしろ丁寧に読んでいる。
解釈もある。意図もある。

それでも、先に立ち上がる。

役に入りきれていないのではない。
むしろ、入り方が深すぎる。

役を通るのではなく、役がその人を通る。

同じ台詞を言っているにも、
その人だけ、空気の密度が変わる瞬間がある。

言葉が流れない。
どこかで押し返されて、出てくる。

役の言葉なのに、
辿り着く場所が変わらない。

演じているはずなのに、
誰かに変わっている感じがしない。

通っている。
はずなのに、残る。

形は変わる。
でも、どこかが同じまま残る。

けれど、その人が自分の場に立ったとき、
同じ輪郭は、まったく違う光り方をする。

言葉も、音も、間も、
どこも引っかからない。

通す必要がない。

そのまま、出てくる。

その瞬間、輪郭は強さになる。

その人は、演じる人ではないのかもしれない。

誰かになるのではなく、
そのまま場が変わる。

合わせていない。

それでも、合ってしまう。

An aerial photograph of a wind farm during a golden sunset. The sun is low on the horizon, casting a warm glow over the landscape. Several white wind turbines are visible, scattered across a field of green and brown crops. In the foreground, there are several bright, glowing light trails that curve across the scene, suggesting movement or energy. The sky is filled with soft, golden clouds.

そのまま、成立してしまう。



R.

Raffiné Journal vol.29
2026

美学思想家
古川玲奈

発行：Raffiné